

IM 第7組 公開シンポジウム 報告

東南海地震に備える 語り継ぐ津波の脅威 ～東日本大震災から学ぶもの～

東北震災支援PJ担当
副会長

高原 政巳

(大阪御堂筋本町RC)

「公開シンポジウム」は震災から5年目の時期となる3月13日(日)午後1時より、大阪国際会議場で1,000名弱の来場者を招いて開催され、関西大学教授河田先生の基調講演、辛坊治郎様のリードによるパネルディスカッション、第2部のチャリティーコンサートと全て順調に進行し大成功で終了いたしました。

このプロジェクトは大阪御堂筋本町RC、関西岩手県人会、国際ロータリー第2660地区IM7組の共同事業として行い、内容としては2030年頃に想定される東南海地震に備えて大阪地区の皆さんへ東日本大震災から学ぶものとして行ったシンポジウムです。

特にパネラーとしてご参加頂きました陸前高田市市長戸羽様、大槌町総合政策課四戸様、IBC岩手放送記者木下様、大阪市淀川消防署長木村様は3.11の津波をそれぞれのお仕事の立場で体験された方であり、説得力のある内容は参加された方から津波の脅威と減災の準備に参考になったとの感想を多く頂きました。これは終了後にほぼ全員の方より義捐金をチャリティーボックスに頂きましたこ

とが証明しています。

また、当クラブは3年前に2つのクラブが合併してから初めてとなる大イベントの開催であり、全会員が終日かかって作り上げ、クラブメンバーの親睦にも大いに役立ったのではないかと思います。

そして何よりも大きな成果は基調講演、パネルディスカッションを通じて誰でも分かりやすい統一見解「いざという時には自分がまず生きること、日頃から家族と避難についての準備をしておくこと」を提言して頂いたことです。

第2部はチャリティーコンサートで楽しんでいたが、最後は東北出身のマンドリンシンガーの清心(きよみ)さんのリードで「花は咲く」を全員で合唱し、皆さんの大きな拍手で定刻午後4時45分ごろに全てのプログラムを終えました。この瞬間「全てが無事に進行し感動を与えたイベントの成功」を互いに確認し合い、ロータリーの社会奉仕について新たな認識を共有したように思います。最後の片づけまで全員が残り作業をし、その後二次会へタクシーで向かいましたが、車中で「10年目は何をしようかな？」と欲張りなことを考えていました。

私たちのクラブは震災の翌年から毎年石巻東RC例会にRACと一緒に訪問し、そのあと被災地の視察を行っています。これは合併記念プロジェクトとして2021年まで行う予定です。

皆さんこれからも東北震災復興支援と東北を忘れないようにしましょう！

